

2015年9月期第2四半期決算説明会



株式会社アサカ理研

2015年5月27日

本日のポイント

- **2015年9月期第2四半期業績：売上増、営業・経常黒転**
 - ・取引形態の変更による製品販売数量減少
 - ・マレーシア子会社の売上計上による増収
 - ・大規模研究開発投資一巡、コスト削減による営業・経常黒転

- **2015年9月期業績予想修正**
 - ・貴金属相場の高値維持による増収
 - ・生産コスト、管理コストの削減による増益

- **これからの経営戦略について**
 - ・レアメタル・レアアース事業の事業化
 - ・海外子会社の事業拡大

目次

- **第一部2015年9月期第2四半期決算実績**
- **第二部2015年9月期業績予想修正**
- **第三部経営戦略について**

- **前期比「増収」「増益」**

- **売上高変動の主要因**

- (減少要因)受託加工取引の割合増
- (減少要因)取引の見直し
- (増加要因)貴金属価格の上昇
- (増加要因)海外子会社の売上加算

 **増収**

- **利益変動の主要因**

- 貴金属価格の上昇
- 取引条件の見直し
- 製造の効率化
- 全社的なコスト削減

 **増益**

- **国内景気**
 - 経済・金融政策による円安進行と株価上昇
 - 景況感はゆるやかに回復も不透明感示す
- **電子部品・デバイス工業**
 - モバイル情報端末の普及による需要増加
 - 生産は回復基調、円安を背景に生産の国内回帰も
- **金属価格**
 - 金:ドルベース価格底堅い、円安で前期を上回る水準に
 - 銅:平均価格は前期をやや上回る

当期の取り組み

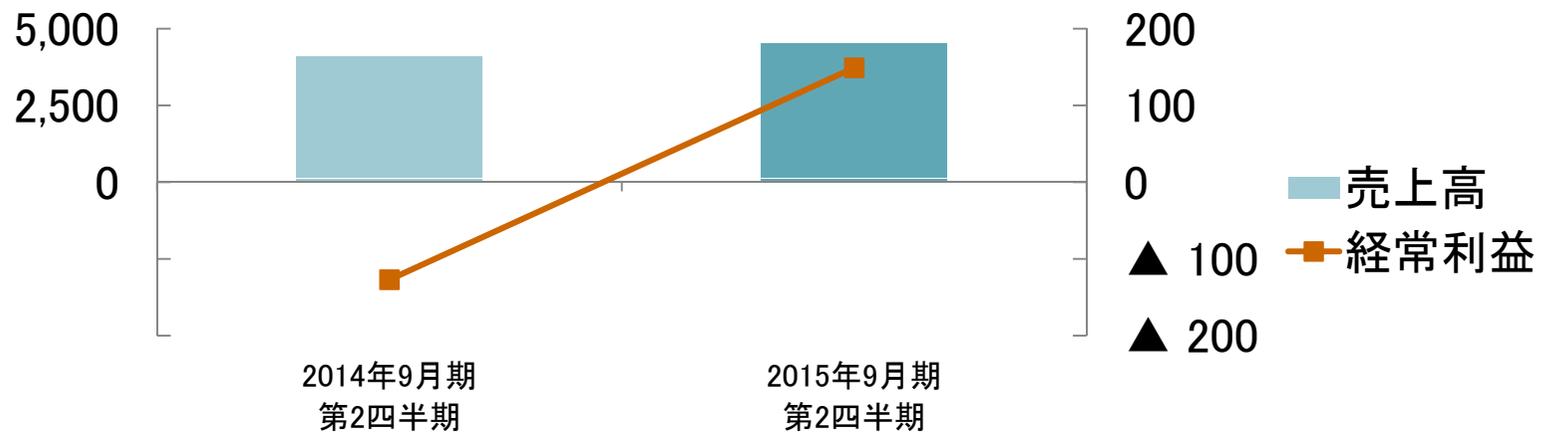
- **レアメタル・レアアースのリサイクル技術開発**
 - 福島県いわき市の研究開発拠点
 - 新しい溶媒抽出技術であるエマルション・フロー法
 - 研究開発・生産技術開発を継続

- **マレーシアでの市場開拓**
 - JICA「中小企業連携促進基礎調査」採択
 - マレーシア国における「e-wasteからの有価金属回収事業調査」

- **既存事業の効率化**
 - 製造コスト、管理コスト削減による体質強化

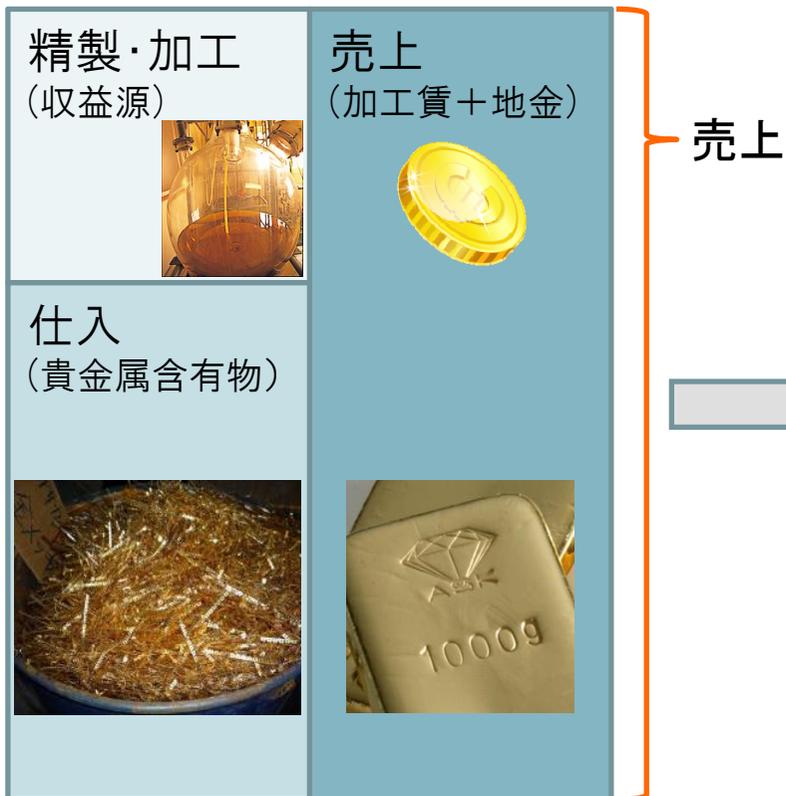
決算ハイライト

	2014年9月期 第2四半期	2015年9月期 第2四半期		
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	前年同期比	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	4,084	4,515	430	10.5
売上総利益	548	761	212	38.7
営業利益	▲118	145	263	—
経常利益	▲127	149	276	—
純利益	▲40	121	161	—

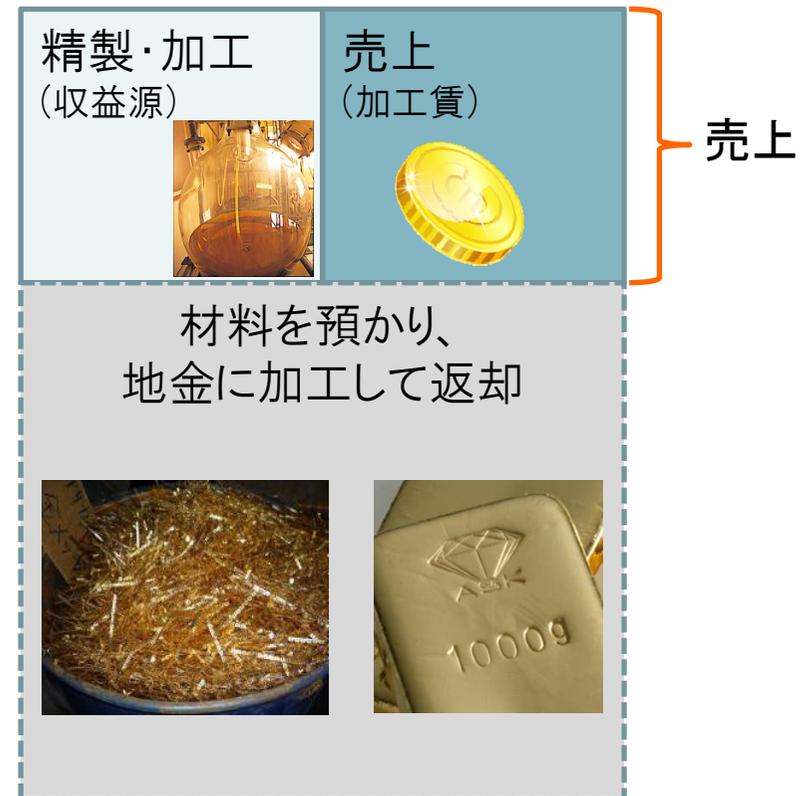


受託加工取引について

■ 売買取引



■ 受託加工取引

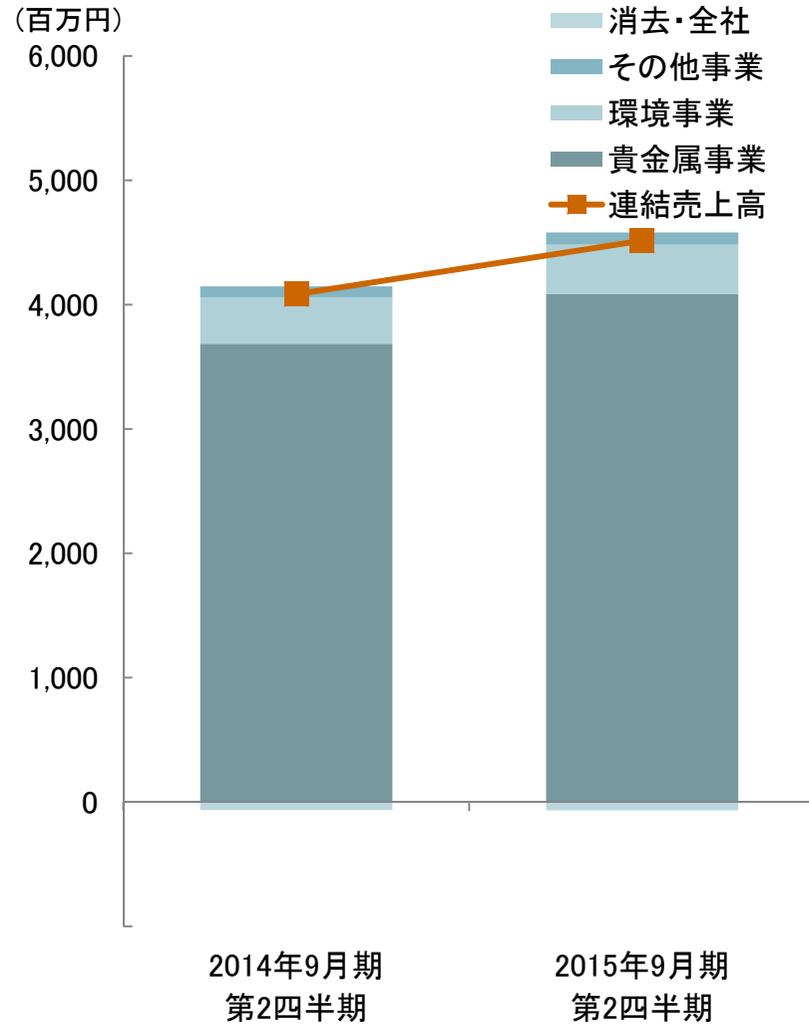


セグメント別業績①

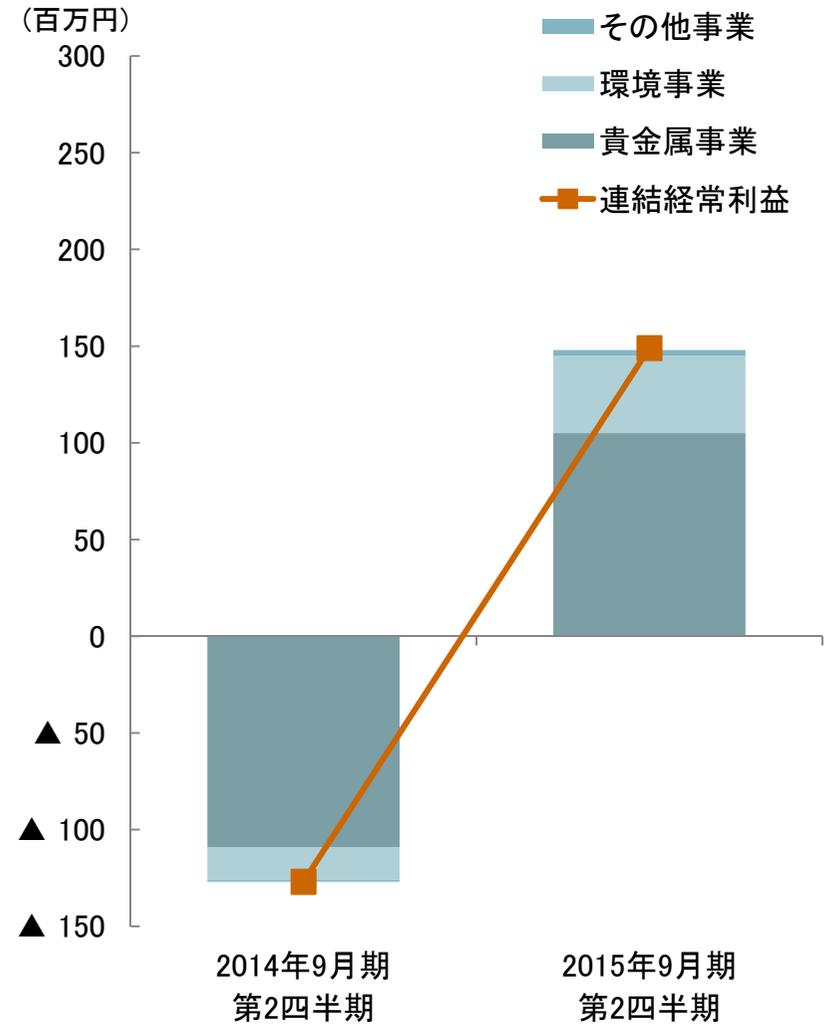
	2014年9月期 第2四半期		2015年9月期 第2四半期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
連結売上高	4,084		4,515		430	10.5
貴金属事業	3,686	88.8	4,084	89.1	397	10.8
環境事業	371	9.0	398	8.7	27	7.4
その他	91	2.2	99	2.2	7	8.6
計	4,149	100.0	4,582	100.0	433	10.4
消去	▲64		▲67		0	—
セグメント利益	▲127		149		276	—
貴金属事業	▲109	85.5	105	70.6	214	—
環境事業	▲17	13.4	40	26.8	57	—
その他	▲1	1.1	3	2.6	5	—
計	▲127	100.0	149	100.0	276	—

セグメント別業績②

売上高

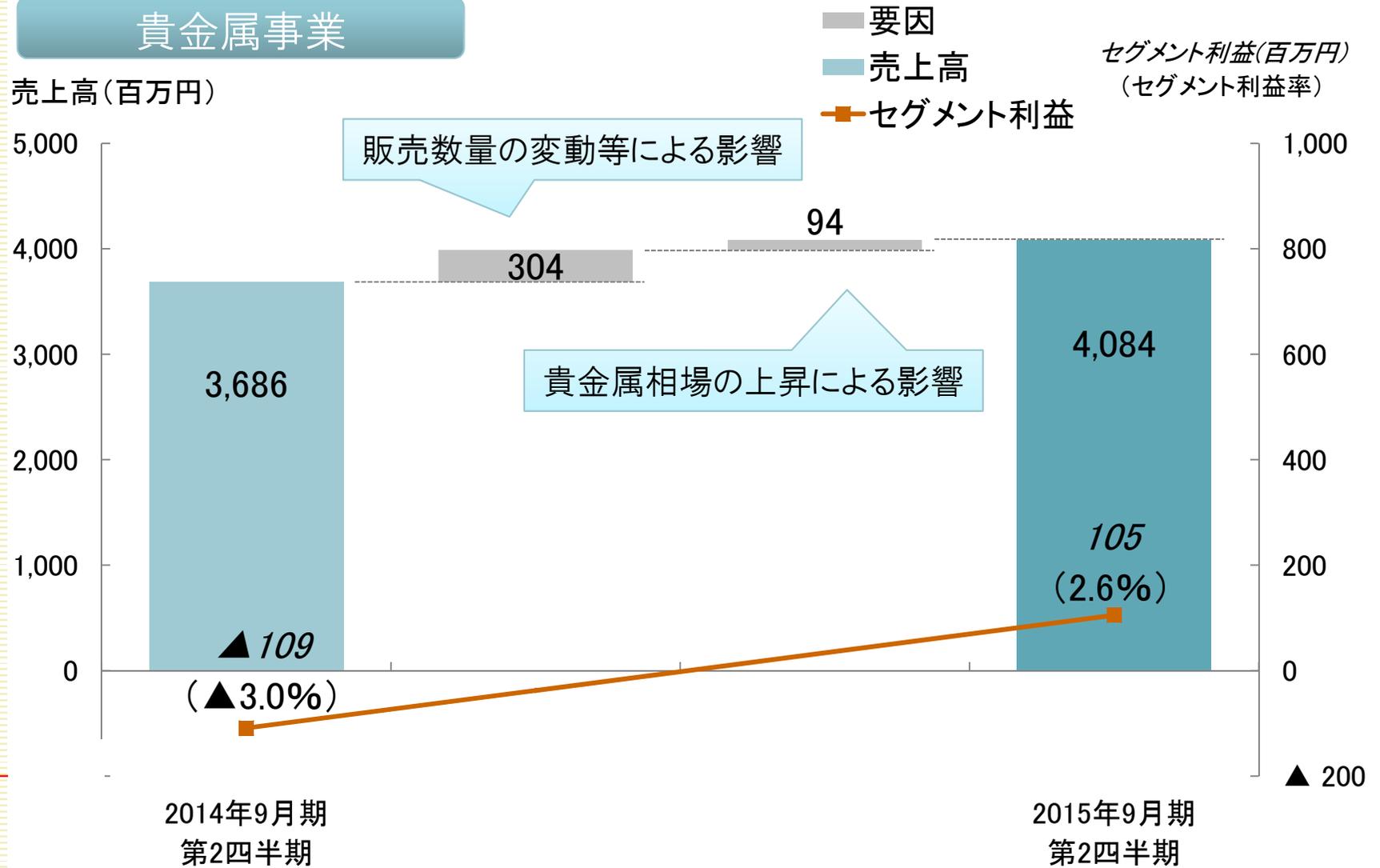


経常利益



セグメント別業績③

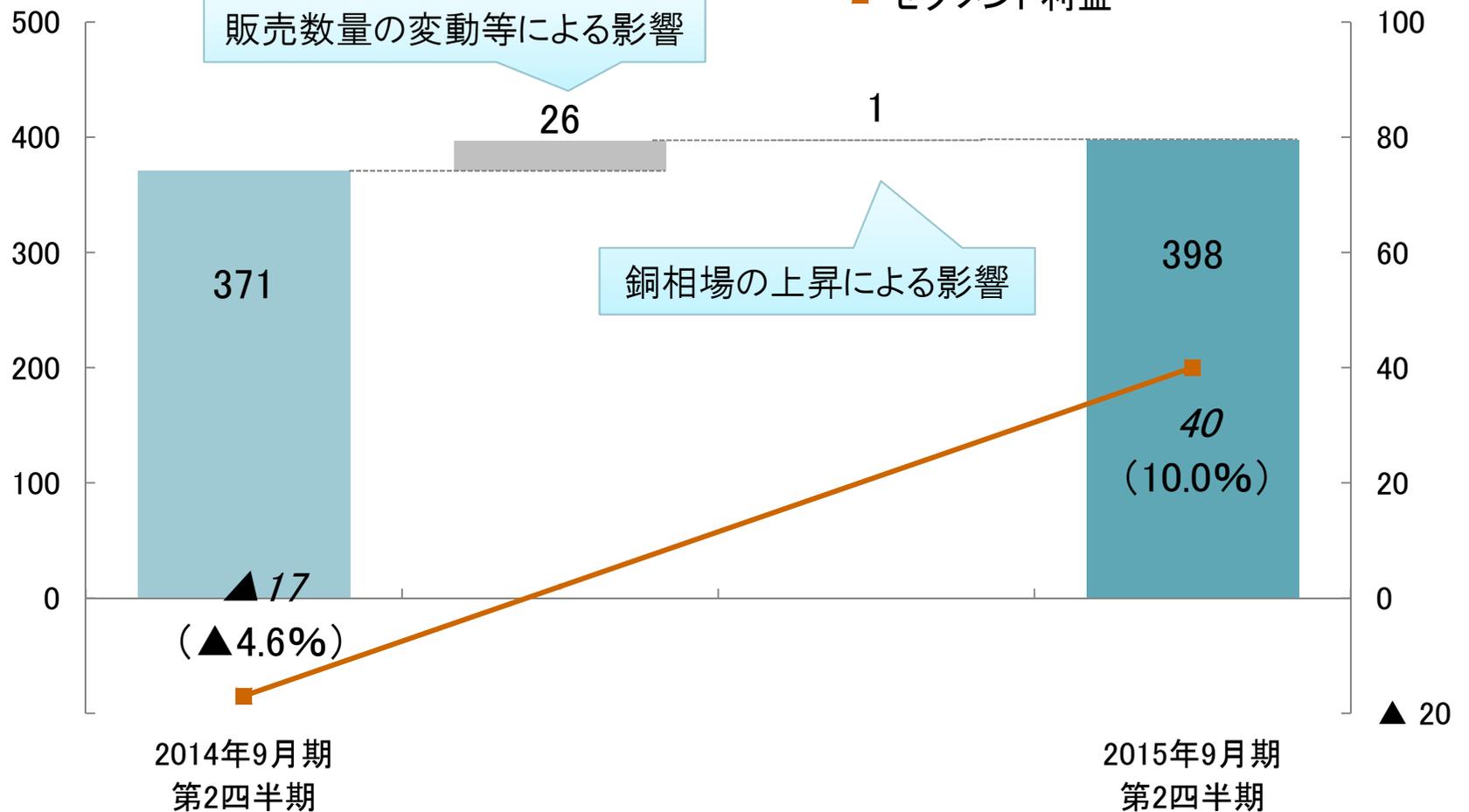
貴金属事業



セグメント別業績④

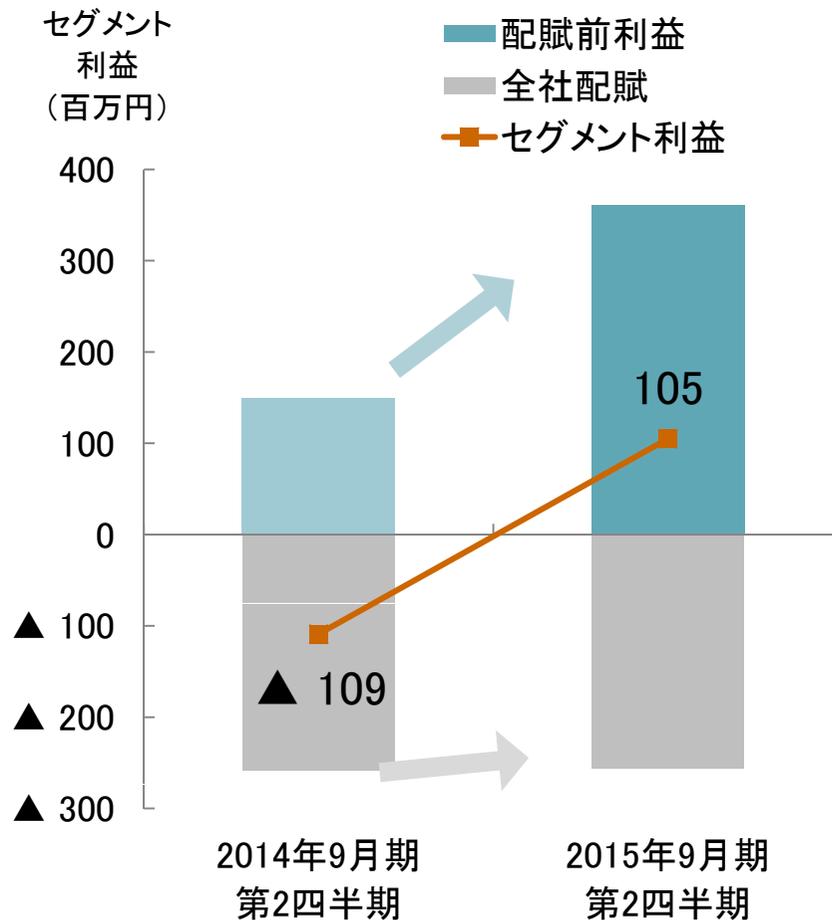
環境事業

売上高(百万円)

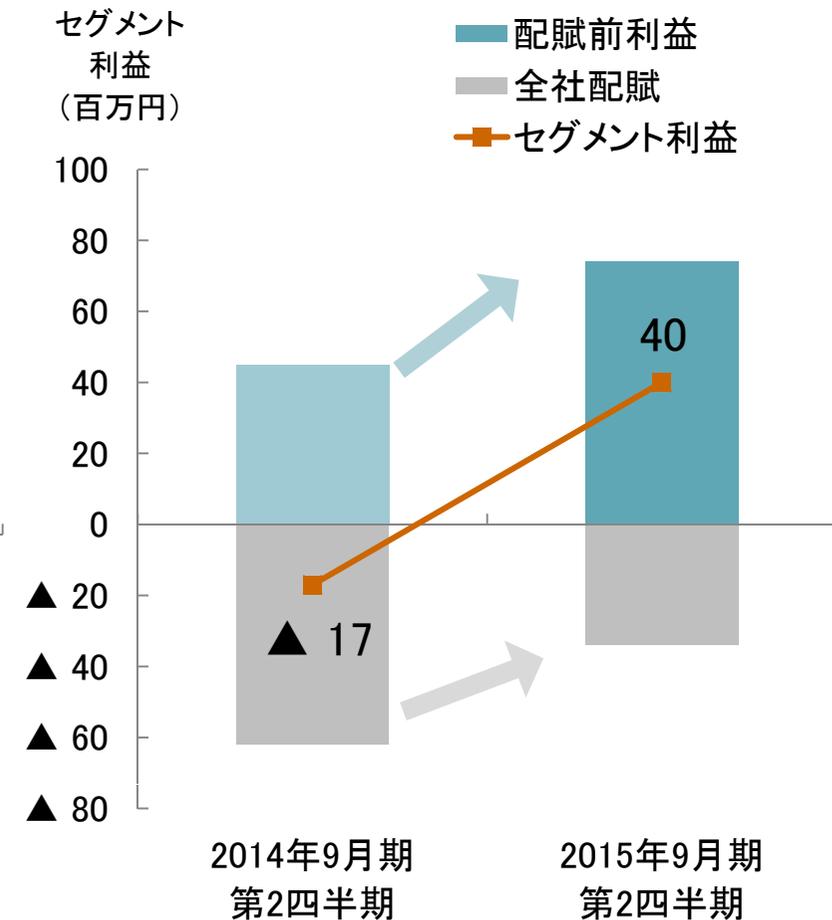


セグメント別業績⑤

貴金属事業



環境事業



連結損益の状況

	2014年9月期 第2四半期		2015年9月期 第2四半期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	4,084	100.0	4,515	100.0	430	10.5
売上原価	3,536	86.6	3,753	83.1	217	6.2
売上総利益	548	13.4	761	16.9	212	38.7
販管費	666	16.3	616	13.6	▲50	▲7.6
営業利益	▲118	▲2.9	145	3.2	263	—
営業外収益	7	0.2	24	0.5	16	212.8
営業外費用	17	0.4	20	0.5	3	19.8
経常利益	▲127	▲3.1	149	3.3	276	—
特別利益	58	1.4	23	0.5	▲34	▲59.9
特別損失	0	0.0	1	0.0	1	—
純利益	▲40	▲1.0	121	2.7	161	—

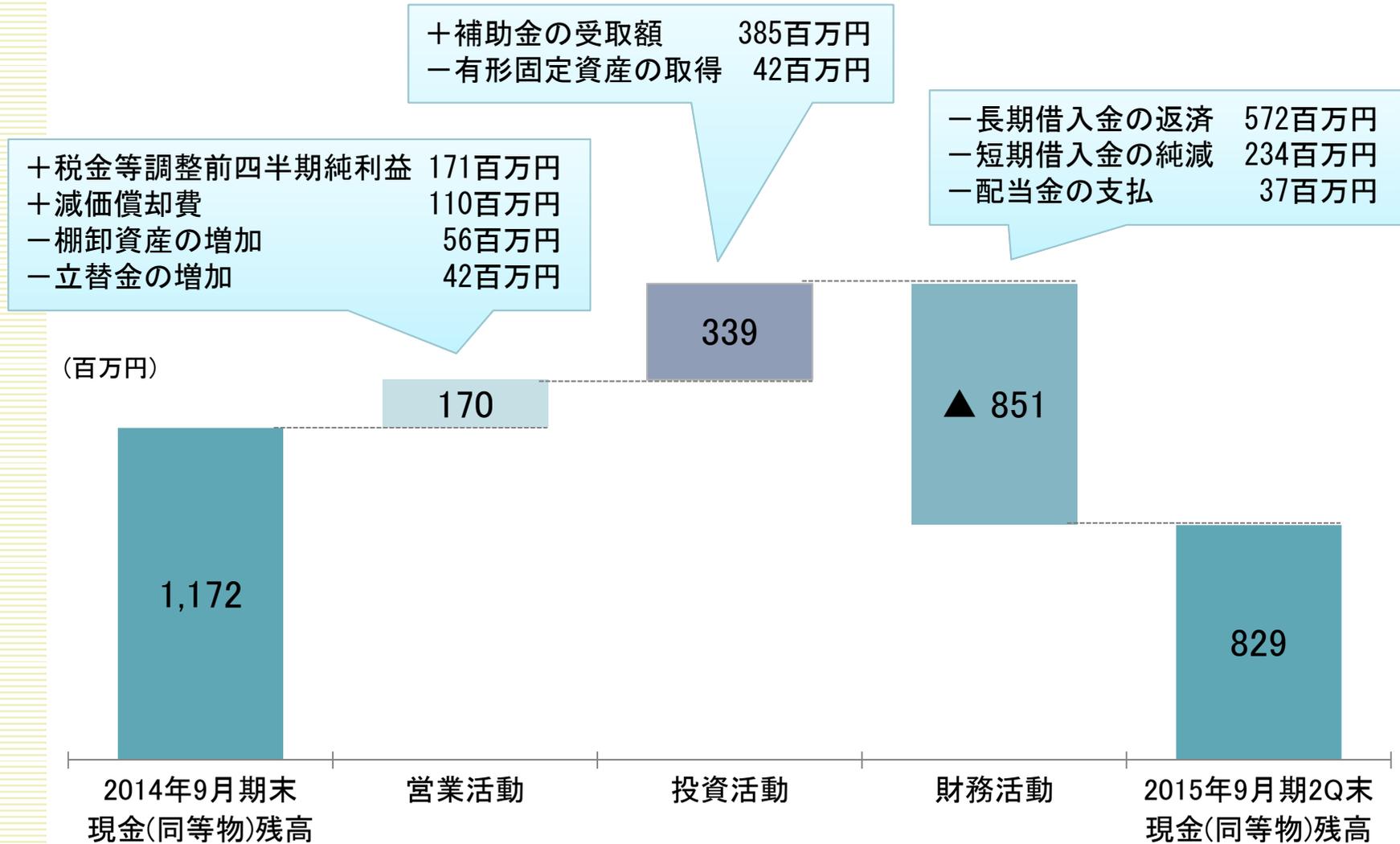
連結財務の状況

		2014年9月期末		2015年9月期 第2四半期末			
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期末比	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
資	流動資産	3,471	52.4	2,848	47.5	▲ 622	▲ 17.9
	固定資産	3,150	47.6	3,152	52.5	2	0.1
資産合計		6,621	100.0	6,001	100.0	▲ 619	▲ 9.4
	流動負債	1,704	25.7	1,596	26.6	▲ 107	▲ 6.3
	固定負債	2,706	40.9	2,025	33.8	▲ 680	▲ 25.1
負債合計		4,410	66.6	3,622	60.4	▲ 788	▲ 17.9
純資産合計		2,210	33.4	2,379	39.6	168	7.6
負債純資産合計		6,621	100.0	6,001	100.0	▲ 619	▲ 9.4

増減理由

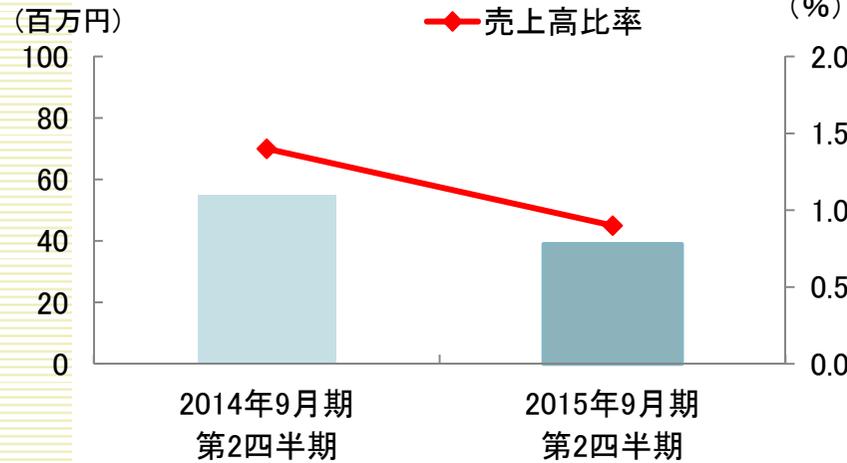
- 資産合計 -619百万円 現金及び預金-343、その他流動資産-342
- 負債合計 -788百万円 借入金-814
- 純資産合計 +168百万円 利益剰余金+135、自己株式-28

キャッシュ・フローの状況

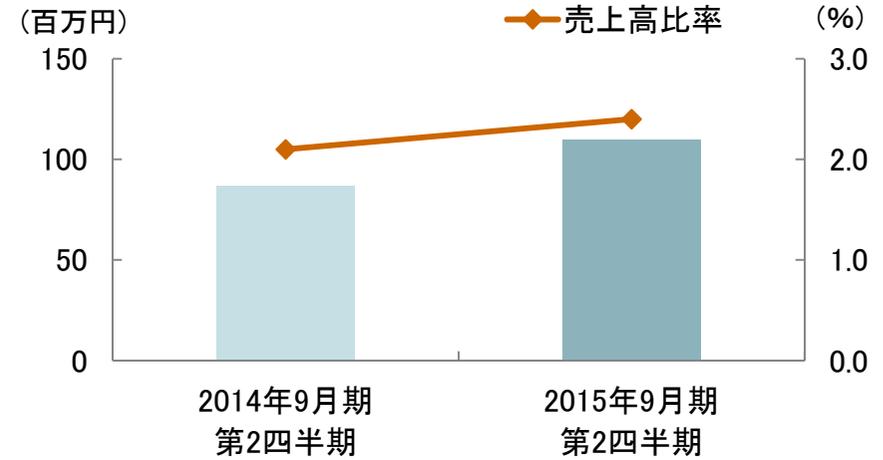


設備投資額・減価償却費・研究開発費

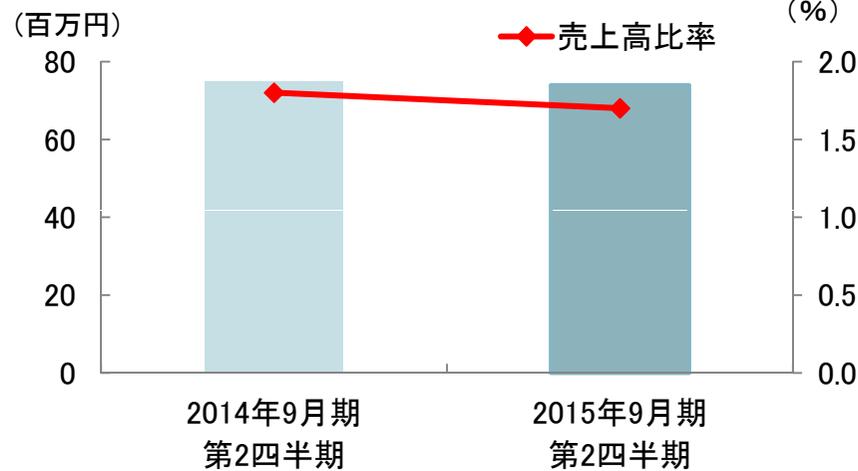
設備投資額



減価償却費



研究開発費



目次

- 第一部2015年9月期第2四半期決算実績
- 第二部2015年9月期業績予想修正
- 第三部経営戦略について

業績修正のポイント

■ 貴金属価格

- 米国の金融緩和縮小の影響により、下落トレンドも、欧州経済の先行き不安や地政学的リスクの高まりで底堅い動き
- 上期は当社想定価格を上回って推移

■ コスト削減の取組みの進展

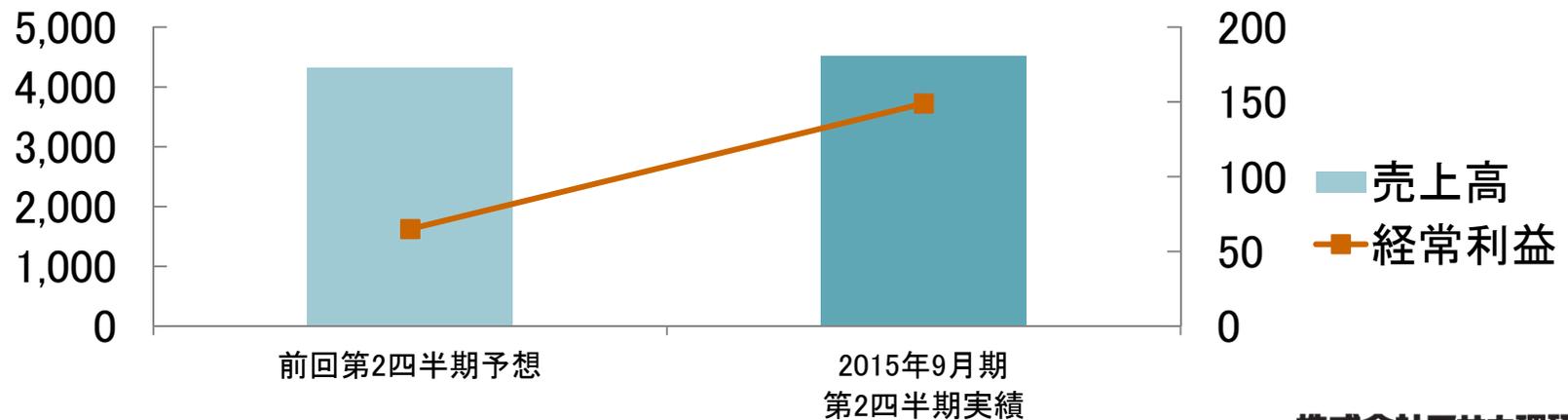
- 既存事業の更なる効率化やコスト削減による企業体質強化

■ 特別利益の発生

- 経済産業省の補助金事業の完了による特別利益

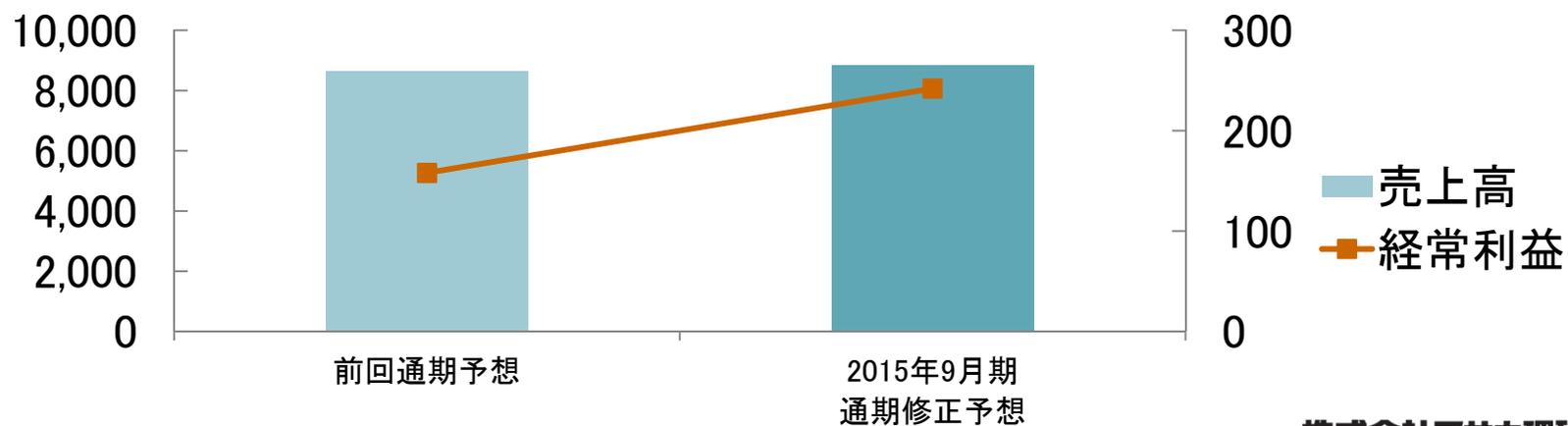
業績修正(第2四半期予実)

	前回 第2四半期予想		2015年9月期 第2四半期実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前回予想比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	4,313	100.0	4,515	100.0	202	4.7%
営業利益	63	1.5	145	3.2	82	130.6%
経常利益	65	1.5	149	3.3	84	130.0%
純利益	56	1.3	121	2.7	65	115.4%



業績修正(通期予想)

	前回 通期予想		2015年9月期 通期修正予想			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前回予想比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	8,622	100.0	8,824	100.0	202	2.3%
営業利益	166	1.9	248	2.8	82	49.6%
経常利益	158	1.8	242	2.7	84	53.5%
純利益	136	1.6	186	2.1	50	36.0%



目次

- 第一部2015年9月期第2四半期決算実績
- 第二部2015年9月期業績予想修正
- **第三部経営戦略について**

□ 当社のこれまでの業績の特徴

- ▶ 外部環境に左右されやすい
- ▶ 外部環境とは、電子部品・デバイス工業分野の生産動向や貴金属及び銅の価格変動

□ 安定した成長に向けた新規事業開発方針

- ▶ 外部環境の影響を受けにくい事業構造を実現
- ▶ 貴金属地金の販売から、付加価値を高めた製品への移行
- ▶ 技術開発投資により技術を蓄積し、新事業の創出を推進

□ 新規事業開発の具体的テーマ

- ▶ 当社のコア技術である湿式分離技術を活かしながら、レアメタル・レアアースに対象品目の拡大を図る
- ▶ マレーシアを足がかりに、東南アジアで都市鉱山ビジネスを展開する
- ▶ 光触媒事業の拡大を図る

レアメタル・レアアース回収事業①

レアメタル

※「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、安定供給の確保が政策的に重要」な非鉄金属（経済産業省による定義）。31 鉱種

レアアース

※31 鉱種あるレアメタルの一種で、17種類の希土類元素の総称
セリウム[Ce]、ランタン[La]など

高機能材

希土類磁石
小型モータ

電子部品

次世代自動車

携帯電話・パソコン

デジタルカメラ

テレビ

製品の小型軽量化・省エネ化・環境対策

液晶

小型二次電池

燃料電池

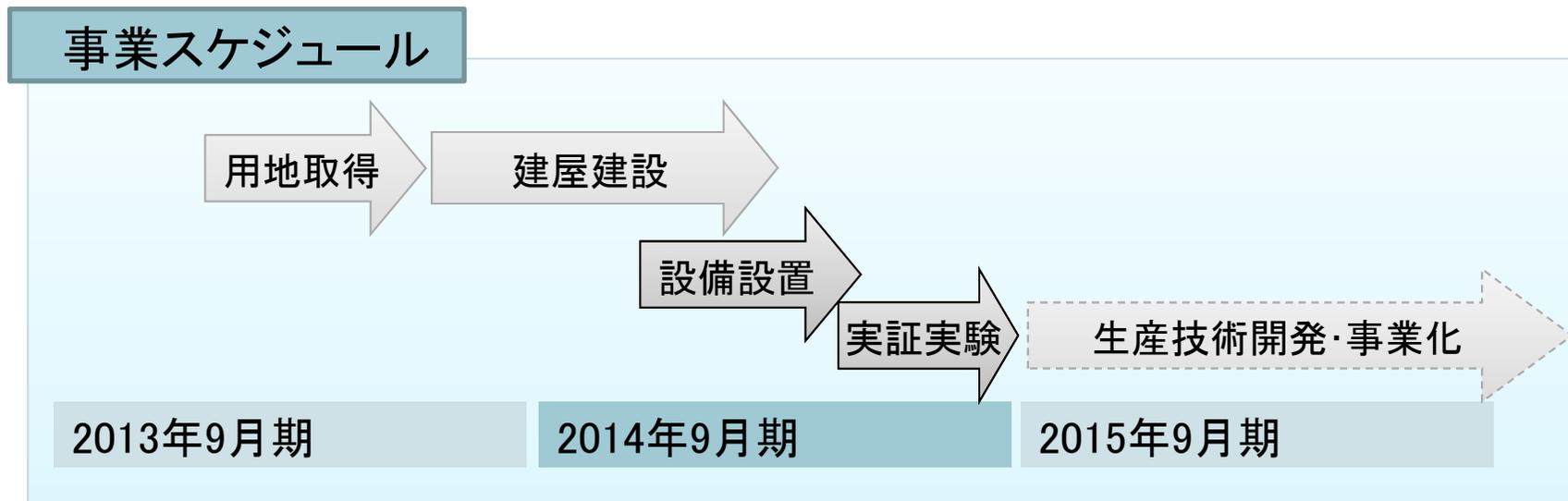
排気ガス浄化

次世代自動車

コジェネ
レーション
システム

レアメタル・レアアース回収事業②

- 2014年8月 研究開発拠点としていわき工場を竣工
- **エマルションフロー法による、光学レンズ廃材からのランタン・ガドリニウムの分離試験に成功**
- ランタン、ガドリニウム、タンタル、ニオブ、スズ等の元素を対象に、回収精製技術、生産技術の確立に取り組む



海外事業(中小企業連携促進基礎調査受託)

JICA(国際協力機構)より調査を受託

【テーマ】「e-wasteからの有価金属回収事業調査」

【期間】2015年3月～2016年2月

【背景】

- ・マレーシアでは、e-wasteが政府認定のリサイクル業者に全て集まらず、認定を受けていない業者や海外に流出していることが課題
- ・e-wasteが適正に流通・処理されない要因としては、有価金属の回収技術が低いために、買取り価格が低く、国際競争力が弱いことが予想される

【目的】

- ・マレーシア国内のe-wasteの取引ルート、処理方法、取引価格を明らかにする。
- ・有価金属リサイクルの事業計画を策定する
- ・同国での有価金属のリサイクル量の拡大や、廃棄物の適正処理に係るコストの低減に貢献する



光触媒事業(太陽光発電パネル向け)

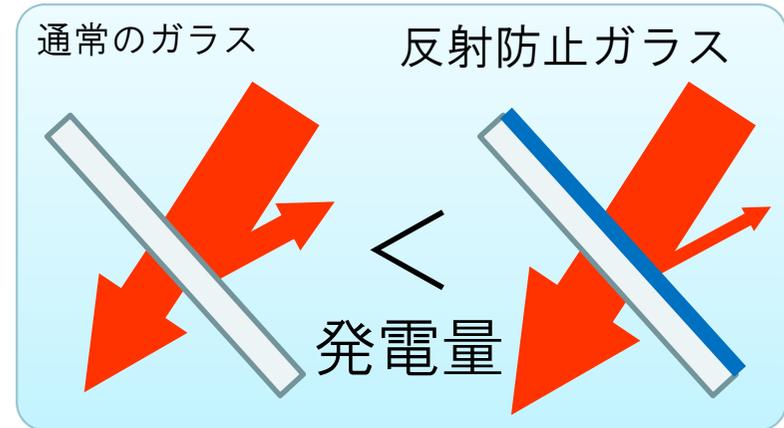
発電効率を高めるふたつの効果

①反射防止

カバーガラスでの光の反射を防ぎ、
より多くの光をパネルに届ける

②防汚

光触媒作用により、汚れの付着を防ぎ、
発電量の低下を抑える



産総研 福島再生可能エネルギー研究所 被災地企業のシーズ支援プログラム採択

「分子結合チタニアシリカを適用した

太陽電池パネルの性能評価および信頼性評価」

・平成26年度の成果

「カバーガラスの透過率の向上」「高温高湿条件下での特性維持」

・平成27年度は、より実用に近い形での性能評価、検証実験を実施



汚れの付着→発電量の低下



お問い合わせ先

IRに関するお問い合わせは下記までお願いいたします

株式会社アサカ理研 経営企画室

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

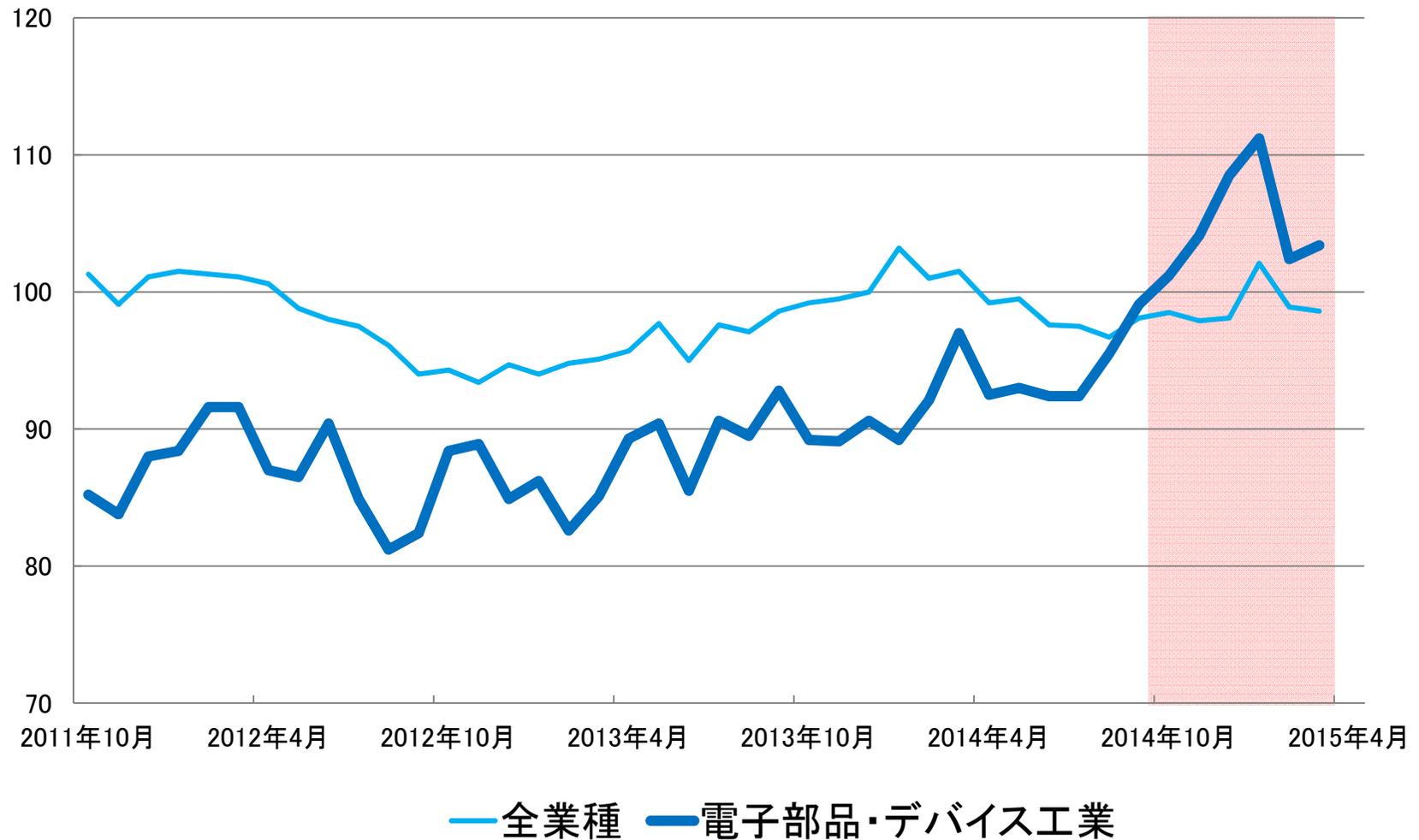
TEL:024(944)4744

FAX:024(944)4749

E-MAIL:ir@asaka.co.jp

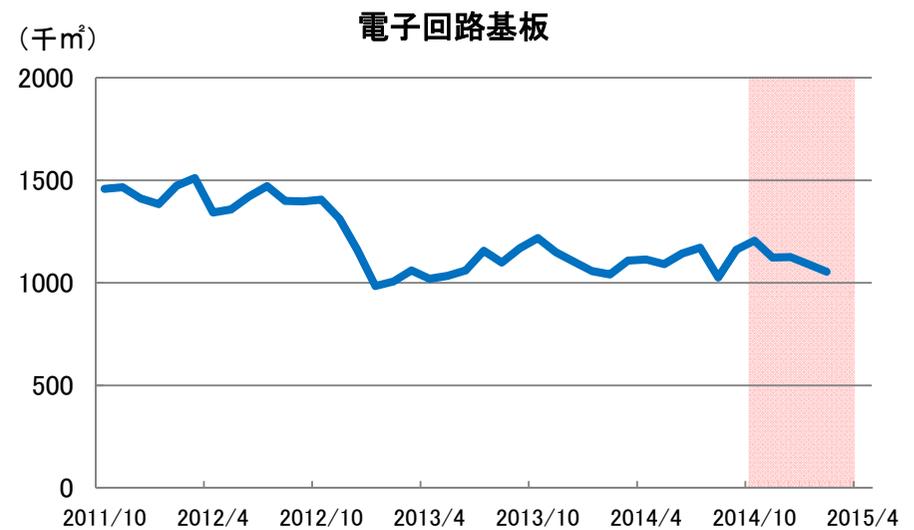
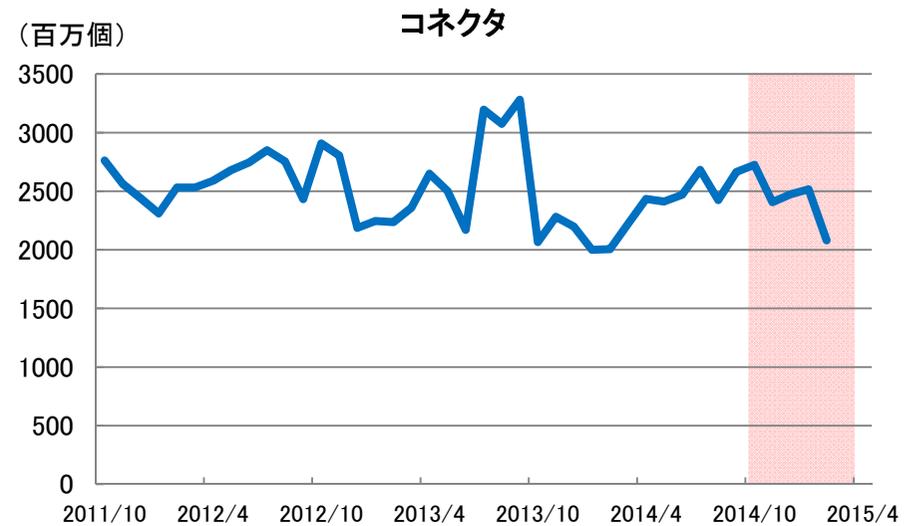
URL:http://www.asaka.co.jp/

【参考】事業環境① 鈇工業生産指数





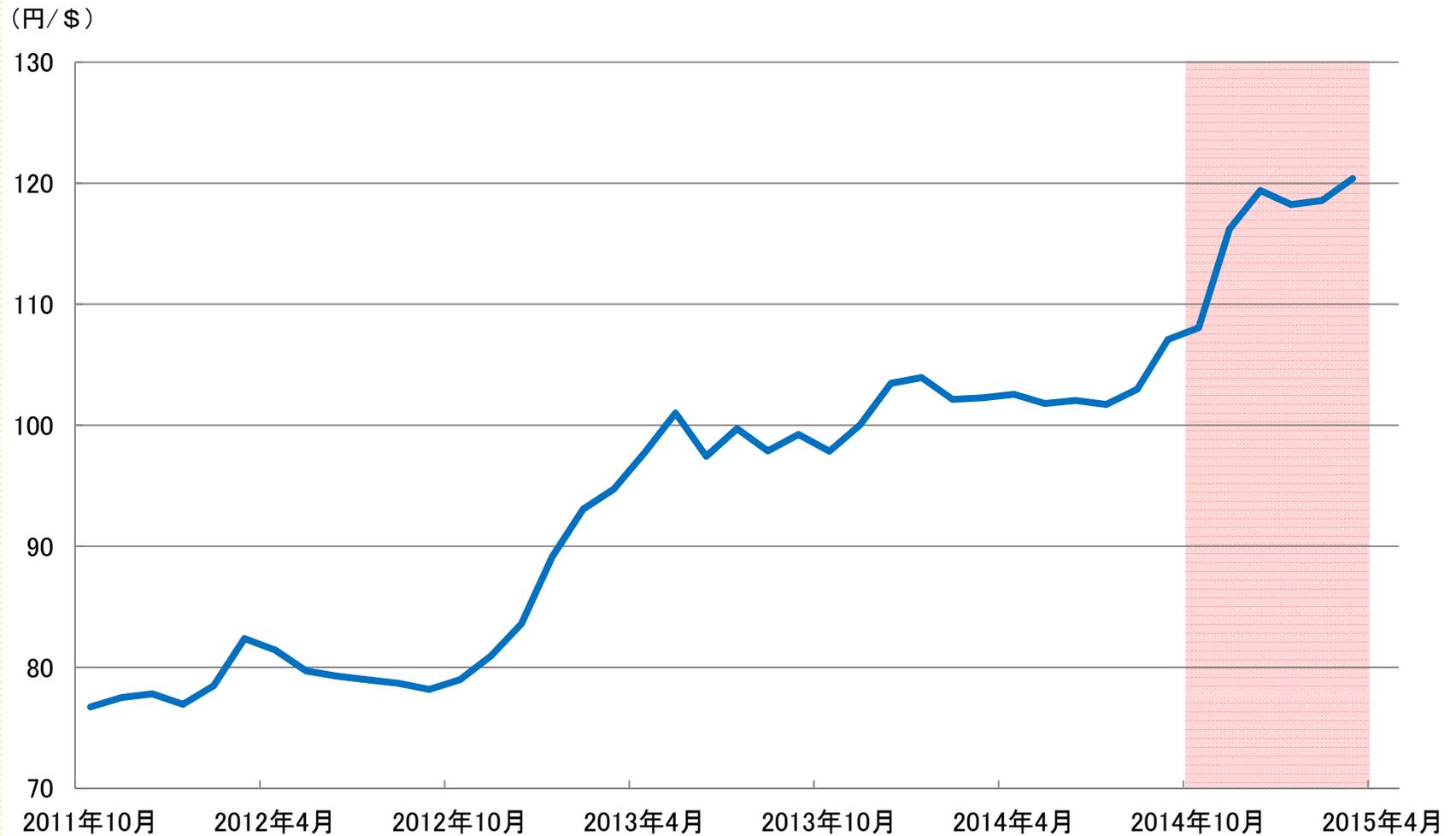
【参考】事業環境②業界別生産実績



出所:(社)電子情報技術産業協会

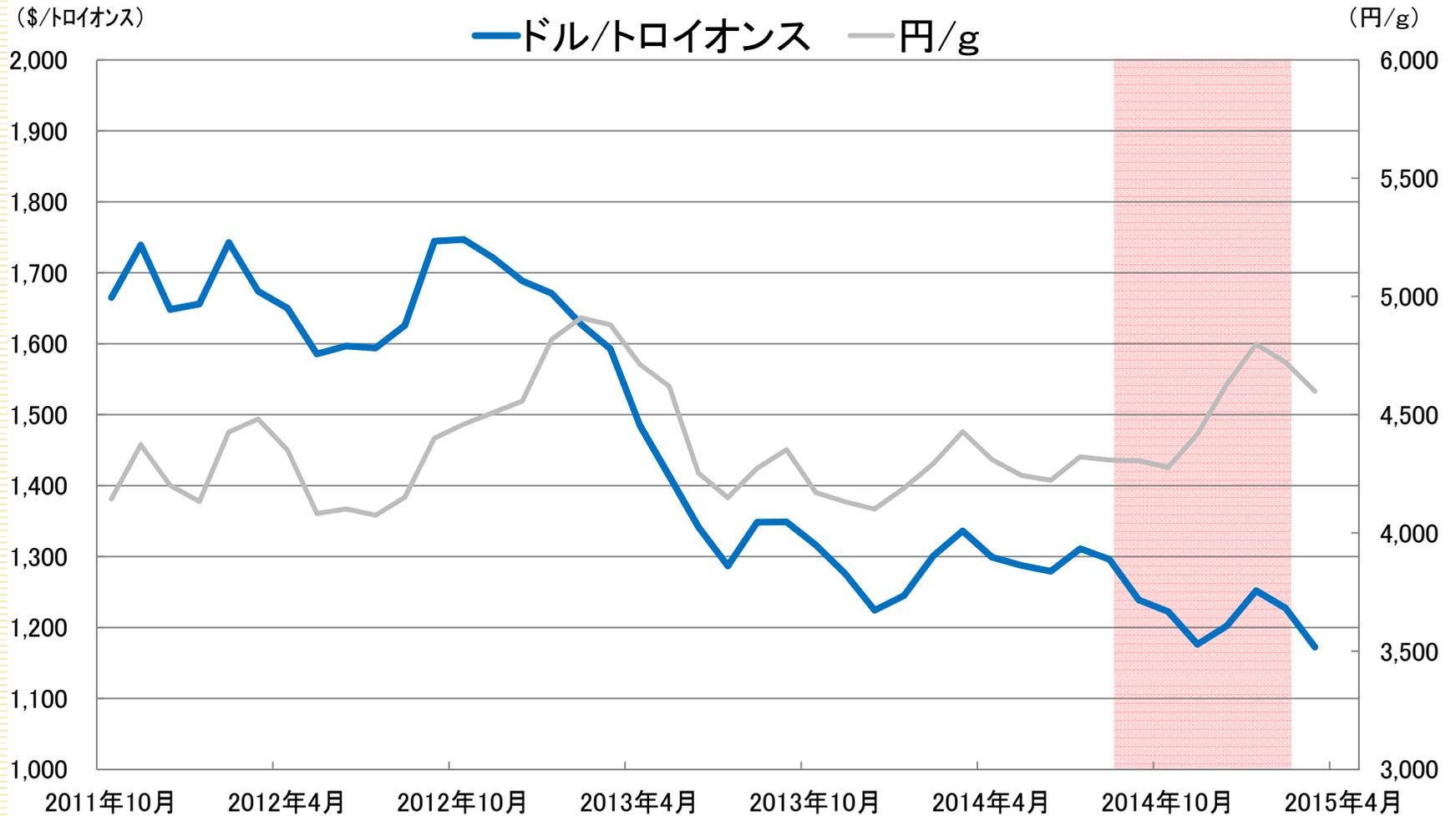
株式会社アサカ理研

【参考】事業環境③為替相場

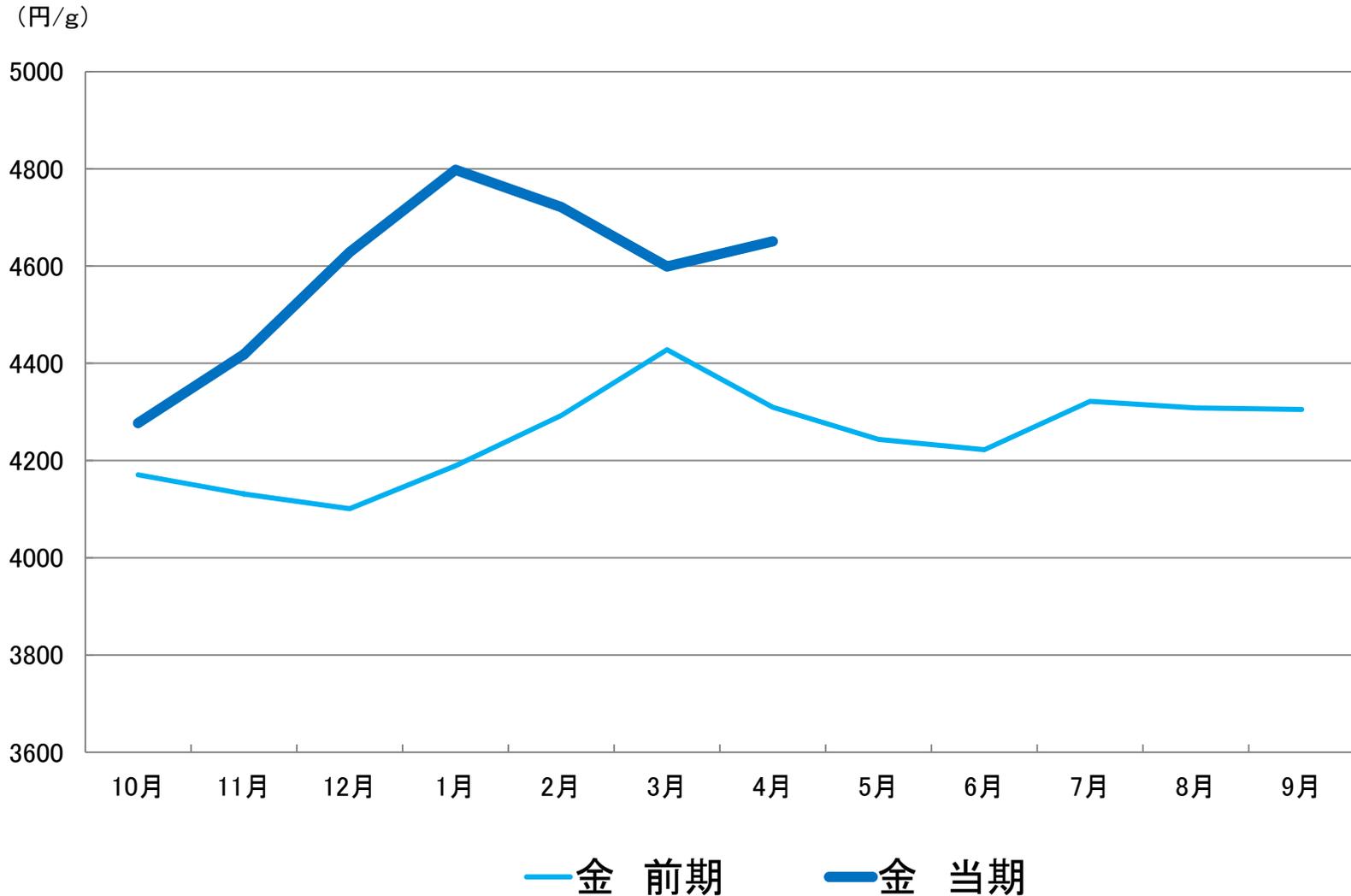


出所：日本銀行(東京市場ドル・円スポット中心相場/月中平均)

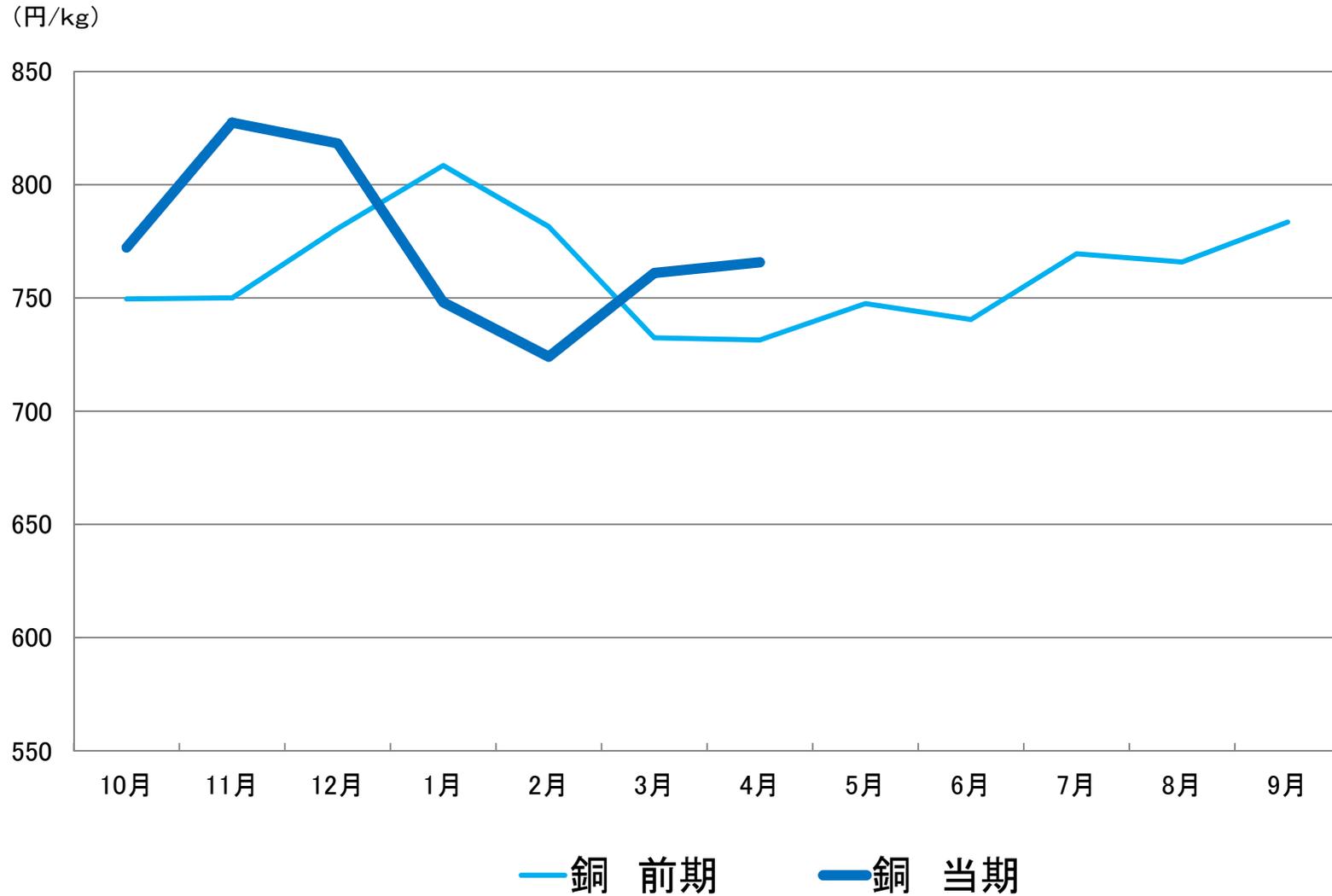
【参考】事業環境④金価格推移



【参考】事業環境⑤金価格前期比較



【参考】事業環境⑥銅価格前期比較



本資料の取り扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。